

品川支部

令和四年2月1日発行

〒141-0022

品川区東五反田1-8-5

Tel&Fax 3442-7075

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

2月

コロナ終息させ全教一斉 ひのきしんデイ九十周年を

感染者数が今までに無い勢いで広がってきました
そんな中「全教一斉ひのきしんデイ」が九十周年を迎えます。
それでも希望が持てるのは、今までのパンデミックの終息パターンに入
ったのではと言う学者の話が多く聞かれるようになって来た事です
説によると、スペイン風邪等も見られた現象で、症状が軽く、桁違
いに感染力が強い株が蔓延した後に急速に終息という事だそうです
百四十年祭を前に通例ですと「諭達」が発せられる年でも有ります。
本部お願いづとめ頂いている事でも有り、是非マスクを外して全教一
斉ひのきしんで元気に終息を喜び合いたいものです



親里の梅

☆支部行事のお知らせ

・支部例会二月二十八日(二頁参照)

*コロナ禍の状況により変わります

開催の有無は

二十一日以降に電話等でお確かめください

・神名流し

共に中止です

・在宅センターひのきしん

・幹事会 二月九日(六時から)
桜京分教会にて

・教区ひのきしん

二月担当は櫻京組の予定でしたが
コロナ対策により中止になりました

☆教務支庁からのお知らせ

・教区長以下、教務支庁・各支部の役員変更
教務支庁及び各支部の役員は三年の任期交替の
年に当たり教務支庁の教区長は浅草大教会長
宮内先生から、本理世大教会長 入江先生に
室長に錦江大教会長 寺門先生と発表になり
ました

当、品川支部でも支部長 豊英分教会長
栗原先生から本大崎分教会長 三輪先生に
代わります
新人事は三月二十六日に各拝命されますが、
四月四日の教区記念祭まで、前任者が勤める
事になります。
他の人事は新しい責任者によってこの後、決
める事になります

・全教一斉ひのきしんデイ九十周年

今年ひのきしんデイの発足から
区切りの九十周年と言う事で、又
コロナで停滞感のあった雰囲気
を一掃して、百四十年祭への弾みに
したいと言う意気込みが有ります
二月の例会のあとに昼食を挟んで
本部制作のビデオを見る等の行事
を予定しておりますので参加の程
お願い致します

・青年会から

予定されておりました二月二十三
日の青年会総会は昨今の事情により
十月二十三日に変更されました。

尚、全支部委員長集合会議は二十
三日十三時から第二別館で行われ
ます。代理参加可能ですが、東京の
一日の感染者が五千人を超えた場合
ZOOMを利用することです

・教区長から

真柱様のお話が有りました
一月の年頭挨拶で現在のご様子とし
て、少しずつ快方に向かい、今の体にも
慣れて最近では、口から食することが
出来るようになってきたとのこと、
迎える年祭につきましたは、年祭の意
義は重く、伝える側の心が大事とい
うお話を頂いたと話がありました

時報手配り二月予定

・一月二十日現在での情報で
今後の様子で変更も有りです

拠点教会	2日号	9日号	16日号	23日号
日本橋	直送	手配り	手配り	手配り
本荏	手配り	手配り	手配り	手配り
南泰	手配り	手配り	手配り	手配り
三ツ木	手配り	手配り	直送	手配り
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り

品川支部例会

令和四年2月28日 (月) 11時開始

場所 南泰分教会

(品川区東品川一丁目二九の六)

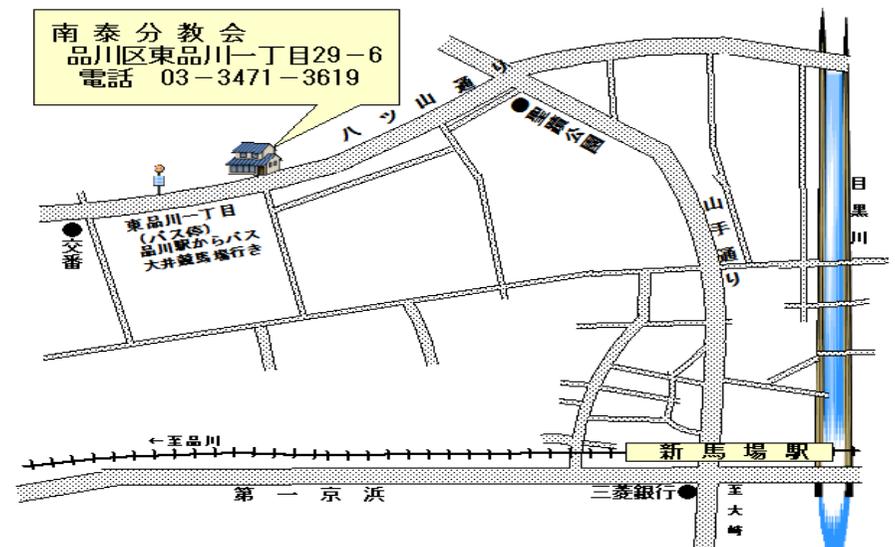
*コロナ禍にて、開催の有無は20日に決定いたします
電話で又は担当にお尋ねください

内容 おつとめよろづよ八首 二下り目 支部連絡事項

当該教会長宮坂先生 挨拶

昼食後、ひのきしんデイ九十周年推進VTR等

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



私の信仰の元一日 ②



布教の家広島寮に入寮して約一ヵ月、私はあるご婦人と知り合いました。その方は当時六十代の方で、昭和二十年八月六日に被爆され、その後遺症で慢性の白血病になり、三日に一回の病院通いで四十年以上も遠くへの旅行はされていなくという方でした。

私は三日間のおさづけの取次ぎをさせて頂くと共に「もし病気が良くなってお医者さんから許可が出たら、私と一緒に天理に行つて頂けませんか」とお願いすると「ああ良くなったら天理でもどこでも行きますよ」と言って下さいました。

それから三日間、おさづけに通うと共に、なにか御供えさせて頂かなければと思ふのですが、布教寮生の身でお金を持っている訳でもない

「そうだ。うちの初代は食べ物喉を通らなくてこの信仰に入ったと聞かせて頂いている。食事を御供えさせて頂こう」と心定めて通わせて頂きました。

そして三日目、いつものように病院に診察に行ったその方は、お医者さんから「随分数値が落ち着いているから、ちょっと間を空けようか。二週間後に来て下さい」と言われ、びっくりして帰ってきて私に連絡をくれました。私もびっくりしました。

変な話「おさづけって本当に効くんだな」と実感した瞬間でした。おさづけの効能については、さんざん聞かされてはいたのですが「聞いてなるほどは他人の理」という言葉にも本当だなと感じました。

「では天理に行つて神様のお話を聞いて頂けますか」とたずねると「もちろんです。友達も誘います」と言って下さり、五月の末にその方とお友達二人の計三人の初席者をお連れしておちばに帰ることができました。

また不思議なことに、その方がお誘いしたお友達二人の名字が、当時南泰の役員として祭典の時に扈者をつとめて下さっているお二人とまったく同じというところにも、神様の存在を感じずにはおられませんでした。

他にも神様はすごいなと感じることがいくつもありました。例えばある家に寮生の一人が戸別訪問でたずねた際は、旦那さんが出てきてあっさり断られ、それから数日後に断られたことを知らない他の寮生がたずねて行ったら、奥さんが出てきて話がはずみ通い先になったということがあります。たまたまといえはたまたまなのですが、その後通っているうちにその家は子供の精神の身上で困っていることがわかってきました。あとからたずねて行つて通うようになった寮生の家も子供の精神的な身上から信仰に入った家であり、先に行つて断られた寮生の家の信仰のはじまりはまったく違う動機であったことが後々わかってくると

「前生のいんねん寄せて守護する」ってこういうことか「この世に偶然というものは一つもない。すべては神様の思いが込められている」とはこういうことか。と感じ入りました。

それと共に、ベテランの先生が「にをいがかからなかった家、断られた家は自分といんねんがない家なのだから気にするな」と言われる意味もよくわかりました。

広島寮での一年は、神様の存在、凄さを実感する一年だったと共に、教会に繋がる信者さんの存在のありがたさ、歴代の会長のご苦勞を感じる一年でもありました。

今、私の長女は兵庫寮でつとめてくれています。日々感じる神様のご守護を報告してくれます。彼女にとつての信仰の元一日が今ののだろうと感じています。

南泰分教会

会長 宮坂義則